

整理番号	24005
評価対象年度	令和4年度
編成区分	当初

事務事業評価(事前)シート

提出日	令和3年12月20日
事業担当課	文化振興課

《基本情報》

事務事業名	遠藤周作生誕100年記念事業費		<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡大
基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	市民が	芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。	
個別施策	G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します		
2025年度にめざす姿 (なにが、どうなっている)	なにが	どうなっている	
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。	

《事業の目的及び現在の取組み概要等》

現状・問題点	<p>○遠藤周作の生誕100年記念事業は、1度しかできない事業であり、この貴重な唯一の機会を機にさらなる周知を図り、遠藤文学をより多くの人に知ってもらい絶好の機会である。</p> <p>○遠藤周作と親交のあった文化人の多くや遠藤周作夫人は既に亡くなられており、遠藤周作を直接知る人から遠藤周作の人柄や作品の魅力を継続して発信し続けることが困難となっている。</p> <p>○令和5年度は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録から5年を迎えることから、その機会も捉え、外海地区の魅力と一緒に、文学館の魅力や情報の発信ができる。</p> <p>○文学館の入館者数は、H27年度は約1万5千人であったが、H28年度の「沈黙」刊行50年の節目の年に2万人を超え、その後も徐々に増え、H30年度は25,323人が来館しピークを迎えた。しかし新型コロナの影響もあり、R2年度は約7千人と減少している。</p>
目標(誰(何)をどのような状態にしたいのか)	生誕100年を機に効果的な周知を図ることで遠藤ファンを増やし、多くの人が記念事業に参加するとともに文学館を訪れる。
課題(どういことをする必要があるのでか)	これから先も引き続き若い世代や新たな遠藤ファンを増やし文学館を訪れる人を確保するためには、文学館や遠藤文学の魅力について新たな手法も用いながらプロモーションを実施して周知を図る必要がある。
上記の問題点に対して現在行っている事業の有無	有・ (無) ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等)
当該新規・拡大事業を行うにあたり、縮小・統合・廃止する事業	有・ (無) ※有の場合は事業概要を添付(委員会資料等) 新規・拡大事業を行うためには、今までやってきた取組みを検証し、成果や効果が低い事務事業の終了も含めた「選択と集中」に努めることが不可欠です。

＜事業の概要＞

<p>事業の具体的内容 (対象、事業主体、事業期間、総事業費、事業費内訳等記載)</p>	<p>【事業概要】 遠藤周作が生誕して令和5年3月27日で100年を迎えることから、令和4～5年度を遠藤周作生誕100年の記念の年とし、貴重な唯一の機会を活かし、遠藤文学の魅力を広く市内外へ伝え、その功績を称えるとともに、次世代につなぐための事業を実施する。また、観光分野とも連携し、遠藤周作文学館を訪れる人を増やすとともに、外海地区全体の活性化や交流人口の拡大につながるよう取り組む。 事業の実施にあたっては、「出会う」「堪能する」「次世代へつなぐ」の3つの柱のもと事業展開を行い、公式ガイドブックの作成など、文学館の魅力向上を行うとともに、特に、若者のファンを増やし、次世代へつなぐことに力を入れ、新たな視点を取り入れた広報周知を行うため、広告代理店を活用したプロモーションを行うなど、情報発信の強化を行う。</p> <p>【事業内容】 ○「出会う」遠藤文学にはじめて出会う、遠藤文学の新たな魅力に出会うきっかけをつくる事業(プロモーション等) ○「堪能する」ファンの方には、さらに深く知ってもらい、遠藤文学に触れたばかりの人には、好きになってもらう事業(特別企画展、公式ガイドブック制作、読書感想文コンクール等) ○「次世代へつなぐ」遠藤周作と親交のあった人が語るエピソードや思い出、遠藤周作にまつわる資料等を集め、次世代に引き継ぐ事業(ゆかりのある方が語る動画制作)</p> <p>【事業費】総事業費44,716千円(R5～6年度:債務負担行為設定) R4年度:20,144千円、R5年度:14,572千円、R6年度:10,000千円 ◆R4年度内訳 特別企画展9,455千円(パネル等制作委託料3,891、著作権使用料2,400、謝礼金2,050、旅費151、消耗品・印刷製本810、郵送料153)、公式ガイドブック制作6,061千円(制作委託料5,000、謝礼金1,000、郵送料61)、記念切手購入1,278千円、講演会実施委託料3,000千円、記念式典350千円(実施委託料300、自動車借上料50) ◆R5年度内訳 プロモーション委託料10,000千円、講演会実施委託料3,000千円、映像制作インタビュー謝礼金150千円、読書感想文コンクール審査員謝礼金1,422千円 ◆R6年度内訳 映像制作委託料 10,000千円</p> <p>【事業期間】R4～6年度</p>						
<p>業務量の増減</p>	<p>1,557時間の増(業者選考、契約事務、打合せ等に係る業務) [内訳] プロモーション656.25時間、映像制作302時間、講演会132.25、記念式典193.25時間、切手発行77.5時間、寄稿依頼195.75時間</p>						
<p>市民等の参画と協働のまちづくり (取組みに☑をし、その内容を記載)</p>	<p><input type="checkbox"/> 情報共有 <input checked="" type="checkbox"/> 参画 <input checked="" type="checkbox"/> 協働</p> <p>書店や商業施設等に特設コーナーを設置するなど、企業とも連携して遠藤文学に触れる機会を創出する。市民がイベントに参加するなど、市民と一緒に事業を盛り上げる。</p>						
<p>事業期間</p>	<p><input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定 (4年度～ 6年度)</p>						
<p>予算額</p>	<p>金額(千円)</p>	<p>国</p>	<p>県</p>	<p>地方債</p>	<p>その他</p>	<p>一般財源</p>	
	<p>当年度</p>	<p>20,144</p>		<p>19,300</p>	<p>8,044</p>		
	<p>総額</p>	<p>44,716</p>		<p>41,800</p>	<p>2,916</p>		
	<p>財源名称</p>	<p>過疎対策事業債</p>					
<p>成果(活動)指標</p>	<p>指標(単位)</p>	<p>来館者数</p>					
	<p>年度</p>	<p>令和4年度</p>	<p>令和5年度</p>	<p>令和6年度</p>	<p>令和7年度</p>	<p>令和8年度</p>	
	<p>目標値</p>	<p>25,500</p>	<p>25,500</p>	<p>25,500</p>	<p>25,500</p>	<p>25,500</p>	
	<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>直近7年間(H26～R2)で最も高い数値を記録したH30年度の入館者数(25,323人)を上回ることを目標値とする。</p>					

評価結果

(1) 今後の事業の方向性と理由

<input checked="" type="checkbox"/> 採択	<input checked="" type="checkbox"/> 所管案のとおり	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善	<input type="checkbox"/> 事業規模拡大	<input type="checkbox"/> 事業規模縮小
	<input type="checkbox"/> 事業統廃合	<input type="checkbox"/> その他		
<input type="checkbox"/> 不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分			
<input type="checkbox"/> 一部不採択	<input type="checkbox"/> 企画不十分			

(2) 評価会議における指摘事項

遠藤周作生誕100年の貴重な機会を活かし、特別企画展の開催や公式ガイドブックの作成、デジタルアーカイブの作成、効果的なプロモーションを行うものである。

遠藤文学の魅力を広く市内外に発信することで、文学館へ訪れる人を増やすとともに、外海地区全体の交流人口の増加にもつながることから、事業の実施は適当である。